令和6年度 第1回甲府市立図書館協議会 議事録

日 時：令和6年8月28日（水） 午後2時～

場 所：甲府市立図書館第1会議室

委 員：出席9名 齊藤委員（会長）、伊東委員（副会長）、雨宮委員、内山委員、篠原委員、
白須委員、畑委員、廣野委員、丸茂委員

事務局：青木図書館長、古屋管理係課長補佐、堀内サービス係係長、牧野資料係係長

- 1 開会
- 2 委員紹介
- 3 職員自己紹介
- 4 会長及び副会長の選出
- 5 会長あいさつ
- 6 議題

（1）令和5年度甲府市立図書館事業報告について

- 事務局説明（資料に基づき説明）
- 質疑応答：なし

（2）甲府市立図書館基本計画の報告及び評価について

- 事務局説明（資料に基づき説明）
- 質疑応答

委 員： 2ページの「施策(3)アクセシビリティの向上」の「ア 合理的配慮」について、合理的配慮に関しては、高齢の方に対する配慮、聴覚等に障がいを持った方に対する配慮ということだと思うが、それ以外に日本語を母語としない外国籍の子どもに対しての合理的配慮というのも今後必要になってくると思う。現段階ではこれは評価の基準には入っていないという考えでよろしいか。

事務局： 合理的配慮については令和4年11月に電子書籍を導入し、去年は学校との連携を取りながら利用促進を行った経過があります。また、外国籍のお子様などには、多言語や多様性に配慮した書籍も徐々に取り揃えているところです。

委 員： 電子書籍について、小学校や中学校にパスワードを付与したとあるが、これは学校で読むということですか。それとも家に帰っても読めるのですか。

事務局： 電子書籍サイトにログインして本が読めるようにIDとパスワードを配付した。学校の1人1台端末でもログインして読むことができる。また、家庭でもインターネットに繋がっている環境であれば図書館のサイトから入って読むことができる。朝読などで利用されている学校もある。一人が借りていても他の人が読める読み放題パックがあるので、そういったものを利用していただいている。

委 員： 学校では1人1台端末の持ち帰りを行っている。書籍だけではなく、宿題も端末を通して行うということも進めている。電子書籍については、タブレット端末にアプリがあり学校の朝の読書や休み時間の読書だけではなく家に帰って読書する場合

もある。図書館基本計画にも「読書記録ノート」という読書履歴を記載する取組が書かれているが、本校も読書履歴を、短い文章でも残していこうということで取組を進めているところで、そのような形で活用させていただいている。

委員： 評価がBのところの課題について、予算が付けばもっといろいろ出来て良くなるのではと思った。評価を行い予算が足りないという課題が見つかりそれを今後どうしていくという所がないと良くなれないと思った。

事務局： 予算の限りがある中で、協議や調査研究を行いながら優先順位や全体を考え予算付けがされるということが実態となっている。今後についても、行っていく時期などを見ながら進めていきたいと思っている。

(3) 令和6年度甲府市立図書館事業計画について

○事務局説明（資料に基づき説明）

○質疑応答：なし

(4) 【仮称】第2次甲府市立図書館基本計画について

○事務局説明（資料に基づき説明）

○質疑応答

議長： 今、事務局から説明がありました。本日は骨子についての協議を行います。当協議会の中では、10月下旬に原案について、11月下旬には案について協議を行い、その後、パブリックコメントを行い、来年の2月中旬から下旬に基本計画（案）が報告されます。何でも気が付いたところのご意見をお願いしたいと思います。

委員： スケジュールの所で、2月中旬から下旬に協議会開催（書面）とあるが、書面というのは郵送で送られてきて協議会を開かないということか。

事務局： 今年度、集合での協議をいただくというのは3回を予定している。

委員： 山梨県の図書館の資料を皆様の机の上にお配りした。資料費の金額は甲府市が一番少ないです。もっと図書館に予算を付けていただきたい。

議長： 私も常々そう思っている。図書館に予算を付けていただきたいということを、甲府市の方に要望してほしいと切にお願いしたい。

事務局： 資料の充実というところが図書館の大きな魅力の一つになっていると思う。少ない予算の中でも工夫をしていろいろな方法を考えながらやっていきたいと思う。

委員： 正職員に司書の方がいないのは甲府市立図書館のマイナスの特色だと思う。プラスの特色は移動図書館なでしこ号を持っていることだと思う。

予算がないと本をリクエストしても順番が回ってこない、若しくは本そのものが無いということに繋がるので、予算が大事だと思う。

委員： 私も予算が少ないというのは、その通りだと思う。

終活や亡くなられた方に多くの蔵書があった場合、全部ゴミにして焼却処分するケースが非常に多い。もったいないと思いながらも借家だったりすると処分せざるを得ない。図書館の職員の方がそのような家庭に出向いて、いただける本があればいただいてこられるということが出来れば非常に有意義になると思う。

図書館は 19 時で閉館しているが、利用度が高い図書館なので、以前のように 21 時位まで開館していただくと地域としてはありがたい。

議長： 私は地域文庫を長い間行っていた。地域の方々がこれを読んで欲しいと昔の百科事典や子どもの辞典を沢山持ち込んで来たが、それを本箱に並べても、内容が古くて今のニーズに合っていないから誰も触らないため、結局、本箱にも並べられない場合もある。私の文庫は小さいが、図書館は大きいのもっといろいろな方から本が持ち込まれてくると思う。今後検討してください。

委員： 職員のお勧めする本というコーナーは凄く良いと思う。

甲府市立図書館の歩みを地域の人があまり知らない。公民館で何かイベント等があったりするときに、図書館職員が行って、図書館のPRを行えば良いと思う。

事務局： 現在、レファレンス室の前で、権太文庫の教科書などの展示を行っている。今後、いろいろな機会でのような良い資料を公開していきたいと思う。

議長： 児童室に行く階段に、司書さんたちが本の内容やいろいろなことを書いた展示を行っている。この間も新聞で紹介されていた。日々、子どもたちに本を進めるという取組が見られて本当に嬉しいと思って見させていただいた。

委員： 予算の問題はすごく大きい壁だと感じた。なでしこ号は素晴らしいのでぜひ残してほしい。なでしこ号の巡回コースについて、年月が経つとステーションの場所も環境が変わってきて車が停めにくいとか利用者の減少ということも出てくると思うので、児童館に行くのも良いのではないかと思う。

IDとパスワードを配付して電子書籍を見られるようになったが、電子書籍の中に入っている書籍はまだ限られていて、本当に手渡したいものがある中にも無い場合も多々あるので、なでしこ号に実際に本を載せて子どもたちに手渡してもらいたい。

一カ月の赤ちゃんを連れてお母さんが、母と子のおはなし会に来てくれたり、折り紙教室に 100 歳の文庫連絡会員の方が折り紙を教えていたして、図書館は皆の居場所なのかなと感じている。

本に関する予算もそうだが、人に関する予算もぜひ付けてほしい。今、非正規でいるベテランの司書の方々の力は凄く感じている。10 年後 20 年後を見据えて、その方々がお勤めしている間に正規の司書資格を持った職員を採用していただき、後に繋げていけるように引き継いで欲しいと思う。

委員： 先日、学校図書館研究会が行われた。その中で子どもの不読率、一カ月の間に本を読まない小学生が概ね 7%、中学生が 13%位という話が出た。学校外だと一日一分も本を読まない小学一年生が 15%位。子どもたちが一番身近に感じる学校図書館の役割というのは非常に大きいということを改めて実感した。その会に参加した図書館司書と学校図書館教育の担当と、子どもたちが身近に感じられるような図書館運営や、子どもたちがこの本を読みたいと思えるような取組を仕掛けていく必要があるという話をした。学校の図書室に一年生が入ったときに、どこにどんな本があるのか、どこに自分の読みたい本があるのか、そういうスキルを身につける能力を教えている。子どもたちが調べたい、あるいは授業で使いたい、そういう本を探していくというがあるので、図書室を利用するスキルを上げていくところも

学校教育の中で指導していかなければならないと感じている。そんな中で、基本計画の中に甲府市立図書館と学校図書館が連携して子どもたちの読書活動を推進していくと書かれている。子どもたちにとって読書が身近に感じられるような素晴らしい取組だが、アンケート結果を見ると電子書籍サービスについて、保護者が知らない、或いは学校から全然連絡がないという学校もあり、子どもは知っているが親まで情報が届いていないのではと思うので、学校として電子書籍サービスについて繰り返しお知らせしていくことが必要だと感じた。

また、子どもたちが学習で使いたい本が学校の図書室にはないので、甲府市立図書館にこういう本がありますかと学校司書を通して図書館に連絡をさせて頂くことがある。例えば、子どもが自分の端末で甲府市立図書館の書籍を検索して、端末を通して自分が借りたい本が借りられて、その本が何らかの形で学校に届くような仕組みになっていくとさらに図書館の本の活用率が高まり、子どもたちの本に親しむ気持ちが高まっていくのではないかと感じた。

さらに、夏休みの感想文を書くために本を読む子もいるが、それは課題なので意欲向上には繋がらないと思っている。本を沢山読んで短い言葉でも自分の言葉でこんなことを感じたということを書いて残していくことが大事だと思う。

委員： 今、AI技術が話題になっていて、これから先、5年の間にすごく進歩すると思うので、基本計画の「先進技術の活用」に、この文字を一言入れた方が良いと思う。

また、紙媒体よりも図書館や甲府市のホームページで図書館のイベント情報等を得る方のほうが多い。SNSの利用率も調査していただいて、積極的な情報発信を行って欲しい。カウンターに置いてあるイベント情報チラシがとても分かりやすいので、これがホームページから簡単に見られるとすごく良いと思う。

委員： 地域の住民として小さいころから甲府市立図書館は活用させていただいて、温かみのある図書館だな、居心地の良い図書館だなと思って利用させていただいている。県立図書館と市立図書館は近い距離にある。今回、委員になった時に県立図書館と市立図書館の差異はどこだろうと考えた。県立か市立かで負う役割というのは全然違うというのは分かるが、その中で市立図書館は地域に密着していて、地域の住民が活用できる居心地の良さ、小さな子どもが安心して、駐車場からあまり歩かずにその場所まで入れるということかなと考えたときに、議題4の資料②を拝見して「高齢者の居場所」が廃止になっているのが気になった。先程の説明によると、社会教育施設の機能として高齢者の居場所としては十分活用できているので、改めて書くことはないから今回は割愛しますということだと理解できるが、ここは高齢者と限定せずに、例えば全ての住民の居場所づくりとか社会教育への参加ということの明記が必要なのかなと思う。基本方針2で子どもの居場所づくりが明記されている。例えば不登校の子が図書館で学習ができる、本を読める、親しめるということはとても大事なこと。また、引きこもりの青少年が多くいる中で、そういった人たちの学習の機会を図書館という所が持つことが大事ではないかと思うので、割愛してしまうのはもったいないと感じた。図書館は全ての人々の多様な学習機会を守りますよというメッセージとして、この言葉は残した方が良いと思う。

先程、児童館での活動という話があったが、なでしこ号が児童館に行くことは素晴らしいことだと思う。児童館へ図書の貸出を行っているとのことですが、本があることではなくて、それを手渡す大人がいるかどうかということが子どもの読書推進には非常に大事なことだと見ている。本が届いたらそれを繋げる、子どもにこんな本が来たよということが出来るのは児童館の職員なので、図書館と児童館の職員同士の連携も今後必要になって来ると思う。

また、子どもが図書館まで来ることがなかなかできず、友達同士で読書の情報を語り合う場も持てないという中で、各地域、学校区に公民館があるならば公民館図書室が昔の文庫的な役割を持てるように、そこに学生がボランティアで入ってもらい、子どもに本の楽しさを伝えるというようなことを地域でできると良いと思った。

委員： 予算の問題について、限られた中で優先順位を付けざるを得ないというのはよく分かる。なでしこ号のリニューアルについて、第1次計画と同じ表現で記載されているが、なでしこ号は優先順位の中でトップの方に持ってきていただきたいと思う。

また、寄贈について、新品の本であれば、図書館や公民館の図書室でもっと簡単に受け入れてくれるようになれば良いと思う。新しい本でない限りは受け入れが難しいかと思うが、その辺はどうなのかということをお聞きしたいのと、ご検討をいただきたいと思う。

事務局： 一度読み終わった本を次の人に繋げて見てもらいたいという思いの方が沢山いるので、図書館職員が寄贈本を実際に見させて頂いて、その後の扱いについては一任していただいている。書棚に並ばなくてブックリサイクルに提供する本もあるが、今後どのような形で寄贈の受け入れができるのか、また、ブックリサイクルを年1回行っているが需要が多いようであれば開催回数も検討していきたい。

委員： ブックリサイクルの本を学校の図書室へ送ることはできるのか。

事務局： ブックリサイクルで一般の方へ出す前に学校の図書室や児童館、放課後児童クラブの担当者に欲しい本があったら見に来てくださいと伝えているので、希望がある場合は持って行っていただいている。また、公民館の図書室にも、図書館の本を移管している。

議長： 基本サービスの中の「公民館図書室の活用」について、修正案の方で「公民館図書室へ司書の派遣を行い、利用者の利便性の向上を図ります。」とある。ただ本が並べられているのではなくて子どもに本を手渡してあげるとい、その役割がすごく大きいので定期的に公民館図書室へ司書の派遣を行っていただきたいと思う。

委員： 中学の頃、本を必ず読むと学校の図書係の先生が「どうだった」と聞いてくれた。先生からの「読んでどうだった」「なにが良かった」「なにが面白かった」そんな会話が必要ではないかと思う。そんなふうに生徒さんに声をかけてあげてもらえたら嬉しいと思う。

委員： 反対意見ではないが、開館時間について、以前、利用時間別のアンケートを取ったことがあった。20時過ぎに図書館を利用したいという声が上がっていても、実際に何日か集計を取るとその時間にこれだけの場所を開けて職員を配置して電気を付けてまでの開館に見合うほどの人数が来ていないというのが、そのアンケートの結

果で分かった。雇用の問題にもなるが、21時まで働く人員を確保するのも難しい。職員は女性が多いので、この辺は夜になると真っ暗になってしまうので帰りの安全の問題も話に出たことがある。

委員： 本当にその時間帯に利用者が多いということがあれば、それに対して職員を配置する等あると思うが、まだそこまではいっていなかったのかなとその時に感じた。

議長： 他にご意見はございませんか。

事務局は委員から頂いたご意見を今後の図書館活動に活かしていただき、図書館サービスの充実に努めていただきたいと思います。

7 閉会